

平成24年度病害虫発生予報第1号

平成24年4月4日
愛知 県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (苗いもち)	平年並	全域	前年の穂いもち発生量は平年並	±
	ばか苗病	平年並	全域	前年の発生量は平年並	±
	もみ枯細菌病 (苗腐敗症)	平年並	全域	前年の発生量は平年並	±
ムギ	うどんこ病	平年並	全域	3月下旬現在、調査ほ場では発生を確認していない(平年並)	±
	赤かび病	平年並 (やや遅い)	全域	4月の降水量は平年並 生育はやや遅い	±

・留意事項

イネの温湯種子消毒を行う際は、定められた処理温度、時間を守りましょう(例:60、10分)。微生物農薬による種子消毒は、薬液の温度が10以下だと効果が劣るので注意しましょう。消毒後は病原菌による汚染がないように管理しましょう。

イネもみ枯細菌病(苗腐敗症)は、急激な温度差やかん水むらなどの環境変化が発生を助長するので、育苗期の温度管理などに気をつけましょう。

コムギの生育は平年よりやや遅く、今後気温が平年並に推移した場合、出穂期は11月中下旬に発芽したイワイノダイチが7日、同時期に発芽した農林61号が4日、平年に比べて遅くなると予測されています。赤かび病感染予防のための防除適期は、穂ぞろい期から開花初期までです。防除適期を逃さないようにしましょう。詳細は本日発表の「ムギ類赤かび病情報第1号」を参照してください。

果樹

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	平年並	全域	越年罹病葉率は平年並 4月の降水量は平年並	± ±
ナシ	赤星病	やや多い	全域	前年の発生量はやや多い 4月の降水量は平年並	+ ±
	黒星病	やや多い	全域	前年秋の発生量はやや多い 4月の降水量は平年並	+ ±
モモ	せん孔細菌病	多い	全域	前年の発生量はやや多い 4月3日に強風を伴う降雨があった 4月の降水量は平年並	+ + ±
	灰星病(花腐れ)	平年並	全域	前年の果実被害発生量は平年並 4月の降水量は平年並	± ±
	モモハモグリガ	やや少ない	全域	前年秋の発生量はやや少ない	-
ブドウ	黒とう病	やや少ない	全域	前年の発生量はやや少ない 4月の降水量は平年並	- ±

・ 防除対策

【ナシ・赤星病】

降雨前にアンビルフロアブルやスコア顆粒水和剤などで防除しましょう。

【ナシ・黒星病】

りん片発病芽および新梢基部病斑は見つけ次第除去し、落花後にアンビルフロアブルやスコア顆粒水和剤などで防除しましょう。

【モモ・せん孔細菌病】

開花直前にデランフロアブルやICボルドー412などで必ず防除しましょう。また、春型枝病斑は見つけ次第除去し、落花後にビスダイセン水和剤やマイコシールドなどで防除しましょう。

・ 留意事項

落葉果樹の生育は、地域や品種によりばらつきも見られますが、平年より1週間程度、昨年より2～3日遅れています。低温が続くと生育がさらに遅れる可能性があるため、生育ステージに合わせた適期防除を心がけましょう。

ナシでは、昨年の発生量がやや多かった赤星病や黒星病に注意しましょう。

モモでは、4月3日に強風を伴う降雨があったため、せん孔細菌病の発生が懸念されまます。農薬による防除を徹底しましょう。

ブドウ黒とう病は、春季に降水量が多いと発生量が多くなります。昨年の発生量が多かった場合は、特に注意しましょう。

チャパネアオカメムシは、越冬成虫密度調査の結果から果樹園への飛来数は6月末までやや多いと予測します。詳細は本日発表の「果樹カメムシ情報第1号」を参照してください。

フェロモントラップの誘殺状況からナシヒメシンクイ越冬成虫の発生は、平年より遅れていると思われます。成虫はこれからモモの新梢に産卵し、幼虫が芯折れを発生させるので、フェロモントラップの誘殺状況などを参考に適期を逃さないように防除しましょう。

野菜

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
タマネギ	べと病	平年並	全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の降水量は平年並	± ±
トマト (施設)	灰色かび病	少ない	全域	3月下旬の発生量は少ない 4月の日照時間はやや多い	- -
	コナジラミ類	やや少ない	全域	3月下旬の発生量はやや少ない	-
	ハモグリバエ類	やや少ない	全域	3月下旬の発生量はやや少ない	-
ナス (施設)	灰色かび病	平年並	全域	3月下旬の発生量はやや多い 4月の日照時間はやや多い	+ -
	すすかび病	やや多い	全域	3月下旬の発生量は多い 4月の日照時間はやや多い	+ -
	ハモグリバエ類	平年並	全域	3月下旬の発生量は平年並	±
	ミナミキイロアザミウマ	平年並	全域	3月下旬の発生量は平年並	±
キュウリ (施設)	べと病	少ない	全域	3月下旬の発生量は少ない 4月の日照時間はやや多い	- -
	うどんこ病	平年並	全域	3月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	やや少ない	全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間はやや多い	± -
	ミナミキイロアザミウマ	やや少ない	全域	3月下旬の発生量はやや少ない	-
イチゴ (施設)	灰色かび病	やや少ない	全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間はやや多い	± -
	うどんこ病	やや多い	全域	3月下旬の発生量はやや多い	+
	ミカンキイロアザミウマ	やや多い	全域	3月下旬の発生量はやや多い	+

・ 防除対策

【ナス(施設)・すすかび病】

施設内が多湿にならないように積極的に換気をしてください。トリフミン乳剤やカンタスドライフロアブルなどで防除しましょう。農薬は葉裏にもかかるように丁寧に散布しましょう。

【イチゴ(施設)・うどんこ病】

発病葉や発病果は伝染源となるので、見つけ次第除去しましょう。スコア顆粒水和剤、アフエットフロアブルなどで防除しましょう。

〔イチゴ（施設）・ミカンキイロアザミウマ〕

カスケード乳剤、スピノエース顆粒水和剤などで防除しましょう。天敵を放飼している場合は、天敵への影響を考慮に入れて農薬を選定してください。

・留意事項

野菜（露地）

タマネギのべと病は、気温が高く降雨が続くと増加します。発生を確認したら直ちに防除しましょう。

野菜（施設）

気温の上昇に伴い、トマト黄化葉巻病（TYLCV）を媒介するタバココナジラミが増殖しやすくなります。タバココナジラミの防除を徹底し、トマト黄化葉巻病の発生を防ぎましょう。また、収穫終了後、残さを外に持ち出す前に施設を密閉してコナジラミ類を死滅させましょう。

ナスではすすかび病の発生量が多い状況です。施設内が多湿になると発病を助長するので、積極的な換気に努めましょう。また発病部は伝染源となるので早期除去に努めましょう。

イチゴでは、うどんこ病の発生量が多いほ場があります。発病部位は除去するとともに、農薬で防除する際は同一系統薬剤の連用を避け、葉裏にもかかるように丁寧に散布しましょう。またアザミウマ類の発生量はやや多い状況です。農薬を用いて防除する場合は、天敵、ミツバチ等への影響日数および使用回数に注意し、花に寄生しているアザミウマ類にもかかるよう丁寧に散布しましょう。

花き

キク（露地）では、気温の上昇に伴い白さび病やアブラムシ類が増加するので、親株床も含めて防除しましょう。

発生量及び発生時期の基準

発生量	平 年 並	平年値を中心にして40%の度数に入る幅
	やや多い	平年並の外側20%の度数に入る幅
	やや少ない	同上
	多 少	上記三者の外側10%の度数に入る幅
	少 ない	同上
発生時期	平 年 並	平年値を中心にして前後2日以内
	やや早い	平年値より3～5日早い
	やや遅い	平年値より3～5日遅い
	早 遅	平年値より6日以上早い
	遅 遅	平年値より6日以上遅い

東海地方の1か月予報（名古屋地方气象台3月30日発表）

特に注意を要する事項

期間の前半は気温が低く、かなり低くなる時期があるでしょう。

予想される向こう1か月の天候

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、低い確率60%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、低い確率80%です。2週目は、低い確率50%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

〔気温〕 低い：60% 平年並：30% 高い：10%
 〔降水量〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%
 〔日照時間〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%